



いかにずちの子

カトリック町田教会
町田市の中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512



<http://www.machida-catholic.jp/>



ヨハネ 4:14

わたしが与える水を飲む人は、
永遠に乾くことがない。

親だつて怖いときがある

主任司祭 アシジの聖フランシスコ 田中 隆弘

《わたしたちは、子どものために、強い親でありたいと願っています。子どもがいつでも頼れる存在でありたいと思ふものです。けれども、ときには、わたしたち親も「オズの魔法使い」に出てくる臆病者のライオンのような気持ちになることがあります。そういう時には、虚勢を張らないようにするのが一番なのです。人間なら誰でも、不安な気持ちになることがあるもの

の病気がどれほど深刻なのかはよくわかりません。でも、朝、学校へ行く前に、いつものようにフオーブを抱き寄せたお母さんを、ぎゅつと抱きしめ返したのはフオーブの方でした。お母さんはびっくりして言いました。「ありがとう、フオーブ。心配してくれて」子どもは、不安にどう打ち勝つたらよいかを、親から学びます。わたしたち親が、どんなふうに配偶者や友だちや親族に支えを求めているか、またどんなふうに人を支えているか、その姿から学ぶのです。不安な気持ちどどのように向き合い、どのように解決策を見出していくのか子どもは、親の姿を本として、少しずつ学んでゆくのです》(子どもが育つ魔法の言葉「ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリスII P H P 研究所」)

先日、つくし野天使幼稚園の宗教クラス(園児クラス・保護者クラス・先生クラス)に行ってきました。1学期が終わり、夏休みになります。子どもたちはいま、「わたしたち親が、どんなふうに配偶者や友だちや親族に支えを求めているか、またどんなふうに人を支えているか」その姿を観、学んでいるのかもしれない。

ともに歩むために

運営委員 藤波 由香

先日暑い中、庭の剪定をしてくださるご夫婦を見かけました。また夕方には教会の花々のお世話をするご婦人を見かけました。皆さん町田教会の信者さんで、人知れずご奉仕をしてくださっています。私の知らないところでいろいろなことがご奉仕してくださっていると思うと本当に頭が下がる思いです。

以前の私なら、何も個人でしなくても教会の仕事として組織の仕事に組み込めばいいと思っていました。しかし、町田教会に集う信者さんの取り巻く環境がずいぶん昔と変わってきました。教会の仕事はみんなだと思つると同時に、無理強いすることなく各々ができることを奉仕すればよいとも思い、その反面この先誰が掃除なり役員なり教会の仕事、奉仕を繋いでいくのだろうと考えるてしまいます。

感染症が収束した頃、お掃除はできる方でしたしようと当時の役員さんたちが呼びかけてお掃除が再開しました。みんなと集う奉仕の再開です。個人的に「できる人が出来ること」は基本だと思えます。私たちにはそれぞれ神さまからの役割を頂いているの

です。だから、同じ作業をともにする喜びも共同体ならではの恵みで、日曜日のお掃除が今年度試験的に始まっています。が、「ともに」奉仕する、「ともに」集うことも大切なのではないのでしょうか。ミサ後の会議や行事が多い町田教会ですが、平日お掃除に来られないので、と参加してくださる信者さんも増えてきました。新しい出会いの恵みがそこにはありました。同じ空間で同じ作業をし、ともにそこにいるというのは神さまの祝福があり、奉仕は祈りに通じるものがあります。

様々な奉仕の形があります。が、共に奉仕する心も少しづつ広がるように願っています。そして町田教会を支える次の世代に皆さまの「町田教会を大切に思う心」を繋いでいけるよう、私が出来ることがを模索し続けていこうと思つています。思い起こすと静岡から町田教会に移転二十七年が経ちました。私たちが家族を育ててくださった町田教会の皆さまへのご恩を返せるような働きが出来ますよう、皆さまどうぞお祈りよろしくお願ひいたします。町田教会が「ともに歩む」共同体としてさらに

聖体奉仕の務め

典礼委員長 西野 武

聖体奉仕者とは、司祭や助祭がご聖体を授与する際に補助を行う信徒で、正式には「聖体授与の臨時の奉仕者」と呼ばれています。

この制度は第2バチカン公会議以降、より多くの信徒がご聖体を速やかに受け取れるよう整備され、特に参列者が多いミサで重要な役割を果たします。奉仕者には、ご聖体に深い敬意をもって接する姿勢と、教義や典礼に関する基本的な教育を受けることが求められます。

現在、町田教会には私を含めて19名の聖体奉仕者が在籍しており、女性の聖体奉仕者も増え、共にこの尊い務めを担いながら、教会の典礼を支えています。その養成は典礼委員会のもとで行われております。奉仕者は、教義と実務の学びを丁寧を受けた後、典礼委員会の認定と運営委員会の承認を経て、主任司祭より認定書が交付されます。任期は2年で、更新時にも同様の手続きが行われます。

これまで、「今日のミサで聖体奉仕を担当された方はどなたですか」というお問い合わせをいただくことが多々あり

りました。そのため、今年5月の更新時に土曜日の夕ミサ、日曜日の第一ミサと第二ミサにおいて、聖体奉仕者の紹介を実施いたしました。

聖体奉仕者が少し緊張した面持ちで前に立つ中、信徒の皆さまから温かい拍手が送られ、奉仕者と信徒の皆さまとのつながりを深める場となりました。

この紹介は、奉仕者自身が務めの重みを改めて意識する機会となり、信徒の皆さまにも聖体奉仕の意義を知っていただく良い機会となりました。また、この取り組みを通じて、信仰を育み、教会共同体の一員として生きることを考えるきっかけにもなったのではないのでしょうか。教会に集う私たち一人ひとりが、互いに支え合いながら信仰を深めていければと願っています。

聖体奉仕は、信徒が信仰を深め、キリストの愛を分かち合うために欠かせない営みです。ご聖体の神秘に仕えるこの尊い務めが、これからも教会にとっての恵みであり続けるよう、皆さまのご理解と祈りを心よりお願い申し上げます。



交際 教皇レオ十四世、就任ミサ説教から

参考

カトリック中央協議会 (イラスト: 池永廣美)



新教皇レオ14世

唯一の民として、兄弟として、ともに神に向かって歩み、互いに愛し合おう!

聖アウグスティヌスはこう書いています。「主よあなたは私たちをご自身にむけてお造りになりました。ですから私たちの心はあなたのうちに憩うまで、安らぎを得ることができないのです」



聖アウグスティヌス

主はご自身の民を決して見捨てることはなく、散らされた民を集め、「羊飼いが群れを守るようにこれを守られる」(エレ31・10)

聖霊の光と力をもって神の愛を基盤とし、一致のしるしである、宣教的な教会を築いていこう!

世界に両腕を広げ、みことばを告げ知らせ、歴史に安んじることなく、人類のためのパン種となる教会です。



イエスがペトロに「ゆだねられた使命」と一致。(ヨハネ21・15-19) 悪と死の海から救うために、人間をとる「漁師」となること!



25聖年のモットーは、「希望の巡礼者」(Peregrinantes in Spem)

公式マスコット ル・チェ(光)と仲間たち 目にホタテ(巡礼のシンボル)

初聖体を受けた子どもたち

Sr. エリザベト 吉村

6月22日(日)、キリストの聖体の祭日に、町田教会で12人の子どもたちが初聖体のお恵みを受けました。一人ひとりの信仰の種は家族の中で守られ成長し、この日を迎えています。幼児洗礼の子どもの初聖体は、ご両親の愛と信仰の実りのようです。それぞれのご家族が初聖体を受ける子どもを見守るまなざしには喜びがあり、その喜びは神様への感謝となって表れてゆくでしょう。ご家族にとっては最大の喜びとなる光景です。そして聖堂の中に集う私たちも、教会のこの子どもたちを通して神の家族となる現実を実感し、感慨深いものを覚えます。

初聖体のお恵みを受けた子どもたちの言葉のいくつかを「たいへんだ。イエスさまがはいってこられた」「イエスさまの体を食べたときは、なんだかちよびつとだけうれいきもちでした」「わたしの思い出はみんなと初聖体を受け、イエスさまのパンを食べたことです」「わたしはパンを食べて、き言葉にならない思いが子どもたちの心に秘められています……。初聖体を受ける前日に初めての『ゆるしの秘跡』も受けましたが、その時の印象を記している子どももいます。「はじめて(……)、ほんとうにこころの中をきれいにされたと思います」

このように育つてゆく子どもたちの心の中にイエス様は共にいてくださり、祝福されています。どんなに小さな種であっても、神様の御手の中で大きく成長してゆきます。実際にあった忘れられない話があります。初聖体を受けた一人の女の子が「ご聖体拝領」の回数を書いてゆきました。一人の小さな女の子の心に秘めた決心は、信仰の喜びをより深いものへと導くものでした。やがてイエス様から受けたパンの回数を記した月日が、初聖体を受けた日から50年目を迎えました。彼女は巻物のようになった記録を両手に大切に収めて、神様に感謝と賛美を奉げたということです。この方の人生の記念日ですね。聖年の祈りの中にある「福音の種をためまらず育てる者」へと変える恵みが、イエス様のパンの中にあつたことを証しています。

初聖体のお恵みを受けた子どもたちのために尊い種の成長を、これからもご家族と共に祈り続けたいと思います。

終戦の日に寄せて

戦後80年と

アクション・フォー・ピース

小山 夏比古

今年2025年は、1945年の敗戦から80年にあたります。ちなみに1945年から80年前、1865年は幕末、明治維新の3年前です。以来、敗戦までの80年間、日本は日清、日露、第一次世界大戦と3度の戦争に勝利し、日中戦争、太平洋戦争へと突き進みました。しかし、先の敗戦以来80年間、日本は、戦争をしなかったのです。それは憲法9条が戦争放棄を謳っている

からです。しかし2015年の安倍政権による安保法制以降、沖縄本島をはじめ南西諸島では、米軍基地やそれと一体化した自衛隊基地の建設が進み、中国本土を射程に収めるミサイル基地の建設が進んでいます。

6月17日に出された「戦後80年司教団メッセージ」は、憲法9条を蔑ろにする政府の軍拡政策に対し、はっきりと反対の意思を表明しています。アクション・フォー・ピースは、5月から連続で戦後80年特別企画の催事を行います。5月には恵泉女子学園大学教授、斉藤小百合さんの



ワンポイント聖書

温故知新

⑧

アーメン Amen Amen Amen

アーメンはキリスト教の祈りで一番よく使われる一語だ。なのに、その語源や意味をよくは知らない人がいるかも……と思いつ、今回はそれを一考してみることにした。

「うに」と願う意味になる。英仏語は訳しもするが、元々訳し難い一語だからか、ギリシャ語やラテン語は訳さずにAmenのまま使う。日本語もそうで、これが祈りのアーメンだ。

語源はヘブライ語だ。名詞 **Amen** の意味は「信頼、真実、確実さ」だが、それが文の先頭に来ると、「Amen, amen」と副詞的になり、英語なら「truly, truly」、日本語なら「まことに、まことに」とか「はっきりり言って」等と訳される。例えばイエス様はニコデモとの対話(ヨハネ3章)で大事な点を念押しし、3回もそう言われている。

聖書の中で私が最も感動した場面の一つはネヘミヤ記8:1-9だ。バビロン捕囚から祖国に戻ったイスラエルの生き残りはその日、書記官エズラによる律法の書の朗読に早朝から正午まで聞き入る。そして、朗読が終わると「アーメン、アーメン」と唱えて膝まずき、主を礼拝したのだった。それにしても、早朝から正午まで聞き入ったとは！ かつて預言者アモスが預言した(アモス8:11) ように、彼らが飢えていたのは神の言葉だった。

それに對し、祈りや朗読の後、他の人等が応答して言うアーメンは、「その通り！」と同感、同意し、「そうなりますよ



余生風 佐藤 正明



講演会「憲法の平和主義について―戦争放棄は福音からのメッセージ―」、6月には沖繩の基地問題を描いた映画「標的の島 風かたか」、そして7月13日には、「松浦悟郎司教講話の会―来日したふたりの教皇から学ぶ―」を開催しました。

この講演会は町田教会内部の諸事情により、最初の企画立案から2年間の紆余曲折を経て、やっと実現したものです。アクション・フォー・ピースという小さな活動グループの催事が、講師が司教だということで教会全体を巻き込むことになってしまいました。典礼、施設管理、生涯養成の各委員にご協力いただき、また、町田教会のピース9のメンバー他、ボランティアも加え総勢17名の方に当日の運営を手伝っていただきました。参加者もミサ（写真右）295名、司教講話（写真下）193名、交流会85名と予想

を上回りました。中には遠く静岡、埼玉、千葉からの参加者もありました。

重厚なテーマも司教さまの軽妙な語り口で聴衆をひき込み、締めくくりはやはり「憲法」でした。アンケートをざっと見る限り、高評価が多く「大変わかりやすく、憲法が権力者の行動に縛りをかけているためにあることを初めて知った」という感想も見られました。準備の段階で司教さまには町田教会の実情をお話しし、講話内容について何度も打ち合わせを重ね、司教さまが町田教会のことをよく理解された上での内容でした。終わりに、ご協力いただいた多くの方々に改めて感謝申し上げます。今後ともアクション・フォー・ピースの活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



聖ヤコブの集い

7月27日



聖ヤコブの墓（サンティヤゴ・デ・コンポステーラ）までの巡礼路を足掛け7年をかけて歩かれた白柳弘幸さんが、その道程を映像を交えて語られた。
*詳しくは「雷の子」348号、351号参照。

信者動静

2025年4月～7月

(個人情報のため、削除しています)